

## 第5回日中韓国シンポジウムの概要

企画広報室交流情報課長

遠藤 芳英



シンポジウムでのディスカッションの様子

### 1 経緯

農林水産政策研究所は、平成15年3月に中国農業科学院農業経済研究所及び韓国農村経済研究院との間で、北東アジア地域における農業構造、農業環境、農産物貿易等の諸問題についての研究協力を行うため、北東アジア農政研究フォーラムを立ち上げることに合意した。この一環として、毎年共通テーマを設定し、それぞれの研究成果を持ち寄って討議する国際シンポジウムを持ち回り開催することに合意した。5

回目の本年は、10月15日に中国で開催された。

### 2 本年の会合の概要

今年のシンポジウムは10月15日に北京市の北京友誼賓館内にある会議場で開催された。議題は、「農村金融と保険」、「北東アジアにおける高齢化と農

村開発」、「バイオエネルギーと北東アジア農業に対する影響」が取り上げられ、それぞれの議題のもとで、各国1名ずつ発表者が研究発表を行い、その後討議者が研究発表の内容やその問題全般に関する意見を述べるという形式で会議は進められた。最後は、会場からも質問を募り、発表者がそれに答える質疑応答も行われた。議事進行については各国の所長が交替で行った。

今回、当政策研究所から参加したのは、小西所長をはじめとする7名である。第1の議題「農村金融と保険」の発表者は長谷川研究員、討議者は河原上席主任研究官、第2の議題「北東アジアにおける高齢化と農村開発」の発表者は松久上席主任研究官、討議者は山下主任研究官、最後の議題「バイオエネルギーと北東アジア農業に対する影響」の発表者は小泉主任研究官、討議者は遠藤交流情報課長という役割分担で臨んだ。小西所長はバイオエネ



シンポジウム会場風景

ギーの司会を担当した。

研究の発表と意見交換を通じ、北東アジア3カ国が程度の差はあれ、農村地域の高齢化という問題を共有することが明らかになった。また、農業金融、農業保険、年金制度が整備されている日本や韓国と、そうした制度が未整備の中国との違いが改めて認識された。更に、バイオエネルギーの国内での生産に際して、日中韓とも食糧資源と競合しないバイオマスの有効利用の技術の発展が重要であるとの認識で意見が一致した。

翌16日には、中国農業科学院農業経済研究所が世界銀行の資金を利用して実施した中国の農業政策の分析事業の報告会（World Bank End-of-Project Conference）が開催され、北東アジアシンポジウムに出席した日本と韓国の研究者も招待された。研究発表のテーマは多岐に渡ったが、すべての研究で政策効果を定量的に評価する内容であり、計量モデルやその他様々な手法が用いられていた。本会合では、開催側から急遽、小西所長へ講演依頼があったため、所長より、日本農業の現状に関する講演が行われた。

最終日の17日は北京市近郊のモデル農村（北京市の南西に位置し、自動車で1時間ほどの「韓村河」という村）

や北京市郊外の卸売市場を視察した。

### 3 各議題ごとの審議概要

#### ① 農村金融と保険

長谷川研究員と韓国の研究者から、それぞれの農業金融制度の概要と現状について説明が行われた。この発表では、日韓とも農業特質に配慮した政策主導の金融制度が存在し、農業の発展に寄与してきたことが参加者によく認識された。

一方、中国の研究者からは、様々な指標を用い、国内の穀物生産地帯を自然災害への脆弱性の程度に応じた区分けを試みた研究成果が報告された。

討議者からは、農業金融と価格支持・直接所得支持・農業投資等の他の政策手段が農業所得に及ぼす効果に関し、比較検討を行うべきとの意見や、農業金融の分野で得られたアジアの経験は、アフリカのような他の開発途上地域にも有益な事例となるとの見解が示された。また、河原上席主任研究官からは、農業金融を持続的に発展させるためには貸付資金の確実な回収が必要であり、そのために農業者の信用状況の十分な把握が不可欠との指摘がなされた。また、会場から日本の農家の融資資金の返済状況に関する質問が提起



北京市郊外のモデル農村の風景  
(当農村の発展には建築業の貢献が大きいとのこと)

されたが、これに対して、融資時に綿密な経営内容調査を行うことにより、おおむね返済は円滑に行われているとの回答を行った。

## 〈2〉北東アジアにおける高齡化と農村開発

松久上席主任研究官から、日本の人口構成の特徴、高齡化の実態を都市と農村の人口の移動もふまえて説明し、更に、日本では急激な高齡化が進展し、農村地域でそれが更に進展している実態を多くの数値データを用いて解説した。中国の研究者からは、中国

では近年の特殊合計出生率低下にみられるような急激な人口変動が生じつつあり、将来高齡化社会に突入する可能性がある。そのため、年金制度をどのように拡充していくか、特に農村部にどのような制度を導入していくかが課題であるとの報告がなされた。韓国の研究者からは、韓国でも高齡化社会を迎えつつあり、特に都市部より農村地域でより早く進展しているとの実態報告が行われた。更に、農村地域の高齡者の社会的な活動（賃金労働、ボランティア活動、家族への支援活動）がどのような社会的要因に影響を受けるかに関する計量モデルを使った分析結果の報告が行われた。

討議者からは、韓国も農村の高齡化問題を有しており、韓国政府は農村地域を整備し、農村人口を維持する施策を展開していることが紹介された。また、農村部の高齡化は北東アジア3カ国の共通問題であるとの認識も示された。山下主任研究官からは、中国でも高齡化が進展しつつあり、高齡化率は日本より低いものの絶対数では膨大なものになっていること、問題は中国经济が先進経済に至る以前にこうした膨大な高齡人口を抱えるようになったことであり、今後どのような年金・医療制度で対処するかが問われているこ

と、特に農村部では都市部より高齡化が進んでおり、農村振興なくして農村の社会福祉の充実は困難であること、等の指摘が行われた。

## 〈3〉バイオエネルギーと北東アジア農業への影響

小西所長の議事進行のもと、中国の研究者からは、中国国内でのとうもろこしを原料としたバイオエタノール生産拡大により国内とうもろこし価格が上昇するとの計量モデルを用いた研究が報告された。更に今後の展望として、現在、中国のとうもろこし市場は国際市場とは完全にリンクしていないため、国際とうもろこし需給に与える影響は軽微であるが、将来的には貿易自由化の進展により中国市場は国際市場との関連を深めていくとの見解を明らかにした。

日本からは、小泉主任研究官が、我が国のバイオエタノール政策推進の背景と現状、今後の展開方向について説明した。更に、日本がブラジルからのバイオエタノール輸入を拡大した場合、国際砂糖需給に与える影響に関し、部分均衡需給予測モデルを活用した分析結果を報告した。

韓国の研究者からは、韓国ではバイオディーゼルの生産振興を行う予定で

あること、また、バイオ燃料生産の技術革新が今後必要であることに加え、原料作物の確保が重要な課題であるとの報告が行われた。更に、国内でのバイオディーゼル原料用作物である菜種の生産については、他の作物との生産を行った場合との費用・便益分析の結果も報告された。

討議者からは、日本がバイオマス利用に関する長期戦略を策定している点について、中国・韓国は日本を見習うべきとの意見や、北東アジアの農業がバイオ燃料の国際的な取組状況から受ける影響と、北東アジアのバイオ燃料への取組が国際市場に与える影響の双方を考慮する必要があるとの指摘がなされた。

こうした研究や意見交換を通じて、日中韓の3カ国とも、バイオ燃料の原料となる食用農産物を国内で潤沢に調達できる状況にないため、長期的な技術開発も含め、なるべく食用との競合を避ける方式でバイオ燃料生産の振興を行っていく戦略を有していることが確認された。

## 4 来年のシンポジウムの予定

3カ国の所長による会議において、来年の日中韓シンポジウムの予定は



北京市郊外モデル農村でのヒアリングの様子

2008年6月の第1週もしくは第2週に開催するとの合意に至った。また、韓国農村研究院の崔所長より、議題の1つとして「農村開発問題」をとりあげる提案も行われた。

5

世界銀行「事業終了会議」  
(World Bank 'End-of-Project' Conference)

日韓シンポジウム翌日の16日、世界銀行の資金により中国農業科学院が実施した中国農業政策の分析結果の報告会が開催され、多くの研究者より以下のような課題に関する発表が行われた。研究題材の分野は多岐にわたるが、特徴としておおむね計量モデルを使った定量分析が多く報告された。

## 各セッションの発表課題等一覧

### 議題1 農村金融と保険

議長 Choi Cheng-Sup (KREI 所長)

発表者

- ・韓国の農業金融システムの現状と将来：Hogun Chong (KREI)
- ・中国における穀物生産、リスクによる地域区分 (Risk Zoning) と農業保険政策：Li Xing (IAED, CAAS)
- ・日本における農業金融の現状：長谷川研究員

討議者

Fan Shenggen (IFPRI) / 河原上席主任研究官 / HWANG Eui-Sik (KREI)

### 議題2 北東アジアにおける高齢化と農村開発

議長 Fu Qin (IAED, CAAS 所長)

発表者

- ・日本における年齢構成の特徴とその要因：松久上席主任研究官
- ・韓国農村の高齢者の生産的活動 (Productive Activities) と関連する変数：Sang-Jin Ma (KREI)
- ・中国の人口高齢化の傾向と課題：Zhang Juwei (Institute of Population and Labor Economics, CASS)

討議者

SONG Mi-Ryung (KREI) / 山下主任研究官 / Li Xiande (IAED, CAAS)

### 議題3 バイオ燃料と北東アジア農業への影響

議長 小西政策研所長

発表者

- ・バイオ燃料の開発と中国農業への影響：Xiaohe Liu (IAED, CAAS)
- ・ブラジルの対日バイオエタノール輸出の砂糖市場への影響：小泉主任研究官
- ・韓国におけるバイオ燃料生産の現状と将来：Sang-Min Lee (KREI)

討議者

Li Chenggui (RDI, CAAS) / PARK Hyun-Tae (KREI) / 遠藤交流情報課長

KREI：韓国農村経済研究所  
IAED：中国農科院農業経済研究所

- 中国の農業総合生産能力と食料安全保障早期警戒システム
- 国際的な農業政策改革の中国農業への影響
- 貿易政策分析手段
- 国産遺伝子組換え綿の研究投資の分析
- WTO加盟後の中国の農業支持政策の評価
- 中国の農業近代化の評価
- 農業用水の効率と持続可能性
- 都市化を背景とした中国の土地資源と食料バランス